

# 月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」

今 踏みだす その一歩

特集 あそぼうカー (P.4-7)

・保育内容演習+教育実習 (幼稚園Ⅰ) (P.8-9)

・保育教職実践演習 (P.10-12)

・教員からのおすすめ (P.13)

・!hot news! (P.14-17)

・「月歩学歩学生委員」ページ  
(P.18-19)





今 踏みだす その一歩







今、明徳の学生は、初めての保育実習に踏み出した1年生と、これから社会に足を踏み出そうとしている2年生がいます。そこで今号では、短大から飛び出し保育現場に踏み出しているあそぼうカーを始め、学生が一步を踏み出すための地盤をつくる授業や、さまざまな地へ踏み出しているホットなニュースを取り上げました。





# 特集

# あそぼうカー

ふかや へるた  
深谷ベルタ

2013年9月から、さまざまな保育現場に「あそび」を運んでいる「あそぼうカー」プロジェクト。そのプロジェクトを立ち上げた深谷先生による「あそぼうカー」の取り組みの紹介です。



「あそぼうカー」という明德独自のプロジェクトをご存じですか？

学生食堂前にカラフルに塗られた古いワゴン車（ちなみにフォルクスワーゲン）が停められていますね。私たちはあの車を「あそぼうカー」と呼んでいます。あの車に主に土粘土を積んで、担当教員同伴で学校周辺50キロ県内にある保育施設まで、度々出かけています。保育者養成校である本学がこの

ようなプロジェクトを始めたのは、2013年度の後期からで、現場支援も試みております。

本プロジェクトは、準備が早く整った土粘土遊びからスタートし、キャラクターとして「粘土くん」がその顔を務めてくれています。その意味で言うと、土粘土はただ者ではありません。子どもたちにとって顔と名前のある遊び相手です。



土粘土は実に素晴らしい造形素材であり、土が豊富な日本だからこそ、手軽でエコな素材です。そしてプロジェクトの立ち上げ人で担当者でもある私（深谷）が聞くところによれば、かつては多くの保育施設でも土粘土が使用されていたようです。しかし、近年は保育施設からその姿をほぼ消してしまっています。理由はいろいろとあるようです。土粘土を子どもの時に経験した保育者が今は少ないこと、扱い方が分からないこと、管理や保管の難しさ、それにやはり保育者たちの負担が増大している理由もあるような気がします。

確かに子どもたちはいろいろな粘土を知っていますし、保育園や幼稚園で経験もしますが、それはどちらかと言えば、遊びというより、作品作りに直結しているような関わり方で、造形表現の中で完結する活動が一般的です。机の前にきちんと座り、その上に粘土板や粘土用のヘラなどを出しておきながら、思い思いのモノを作り、それを乾燥させたり、色づけしたり、場合により焼いてもらったりして、何か幼児期の思い出として残る「作品」に仕上げていきます。しかし、これでは子どもたちにとって心から楽しめる遊びになるには少し難しく、巧みさや技術が必要で、素材自体から引き出せる遊びに発展しにくいはずです。作品を意識しているために、どうしても結果重視になりがちですし、幼い人間にもっと大事な経験がどこかで取り残されてしまいます。幼い人間がこしらえた微笑ましい作品を見る楽しみがあっても、それが作った本人にとって一番大事な体験になったかどうかは、別問題です。





「あそぼうカー」の活動が始まってから約2年半が経過し、訪ねてきた保育施設などが今年度だけでも50か所を超え、プログラムに参加してくれた子どもたちの人数も数千人に上るはずです。そして、私たちは決して「作品」を作しません。粘土で（粘土くんと）遊ぶだけなのですが、若い人間にとってこの遊びがどれほど大事なのか、そこからどれほど多くのことが学べ、経験できるのか、そのようにするのがどれほど貴重で大事なことなのか、子どもたちの素材との関わり方や遊びの様子を見て実感できます。まだ数少ないながら、繰り返して利用してくれる園もありますが、たとえばイベント的な利用の仕方ではあっても、子どもたちはこの活動を楽しみにしているし、毎回全身で楽しんでくれています。プログラムが終了した際に「また遊びに来てね」と子どもたちに毎回言われています。たいていの場合、約2時間休みなしで活動し、最後に大きなシートも一緒に掃除しているので、子どもたちはかなり疲れているはずですが、それでもまた遊びたいと言います。「また来てね」「また遊びに来てね」は、子どもたちからいただける最高の褒め言葉で、彼らはこの活動を遊びとして認識し、楽しんでくれた証です。

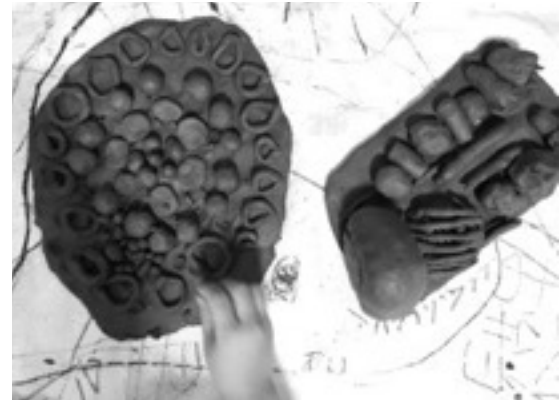
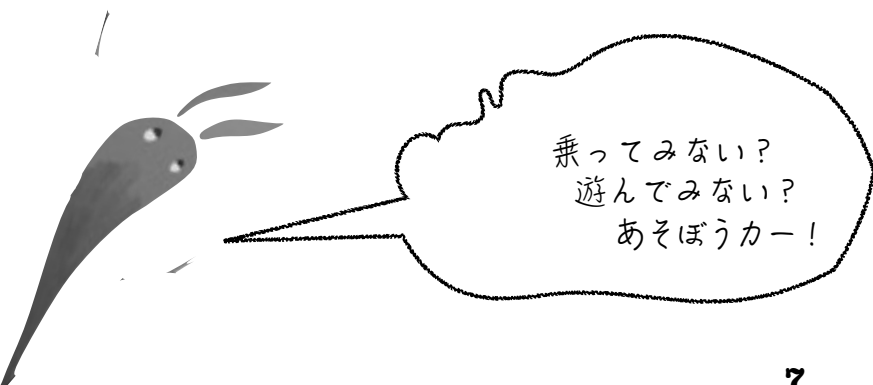
このプログラムは、回数を重ねて行く中で、子どもたちから出たアイデア（遊び方や使い方）を参考にしながら、少しずつ変化しています。他の素材や道具と合わせて使ってみたり、粘土ではなく、全く他の素材にこだわってみたり、時には音と合わせて楽しんだりすることもあります。もっとも変わらないところもあります。私が一番感心する場面の一つはそうです。それは粘土くんの重さを量る場面です。幼児がどれほど好奇心旺盛で、知る意欲に満ちているのか、実によく見て取れる場面です。初めて粘土と関わる時、私たちは必ず秤を持っていきます。使い方を教え、粘土くんの体重を見て読み、それから実際に秤で量ります。子どもにとって、自分の考えや予測が正しかったかどうかを教えてくださいたい機会です。この秤の周囲に毎回行列ができます。小さい秤で本当は10キロまでしか量れませんが、子どもたちは一人ではとても持ちきれないほどの塊を作って量りたがります。そのためにとんでもない苦勞も喜んで引き受けます。知る好奇心も一緒に示してくれていますね。

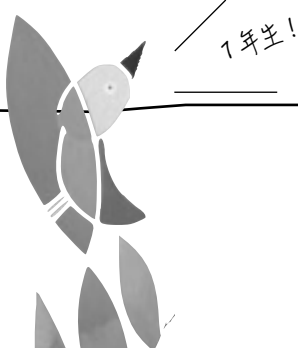




粘土を重ねて高い「でこぼこ山」を作ること  
もよくあります。足元がグラグラしているから  
こそ、その山に登ったり飛び降りたりするの  
がとても面白い。しかも、飛び降りるところも柔  
らかい粘土の上なので、とても気持ちがいいの  
です。遊びの結果として目に見える形は残りま  
せんが、子どもたちの心の中で粘土くんと全身  
で遊べた体験が間違いなく残るだろうと思いま  
す。土の独特な匂いや柔らかい感触、よく動い  
た後熱くなった体につけてみたらひんやりした  
感じ、なめらかな手触り、床に叩きつけた後に  
歪んだ形、足で踏みつけた時の感覚、重さ、数、  
様々な質感と量の体験。そして、普通のおもちゃ  
とは違い、決して壊れることがなく、使いたい  
量だけ使えること。子どもの思いや力を受け止  
めてくれる素材であること。絵の具で色をつけ  
たり、他の素材や道具と合わせて使うともっと、  
もっと楽しいことができることなどです。

本プロジェクトは来年度からゼミ形式の授業  
となるので、いろいろな保育施設に興味関心が  
ある学生、また子どもたちがどのようにして素  
材遊びを楽しんでいるかに興味がある学生、ぜ  
ひ参加してみてください。繰り返しになりますが、  
このプログラムは今のところ「明徳特産」  
です。





# 保育内容演習 + 教育実習 (幼稚園 I)

## 教育実習 (幼稚園 I) 終わる

よしだあらた  
由田新

1年生は、入学直後の4月から、幼稚園・保育園へ「保育体験」として2回、そして7月からは「実習」として6回、年間を通して保育現場と関わってきました。11月末には、子どもたちの前に立って活動を展開していく「部分実習」も経験し、12月の実習を最後に無事、終わることができました。4月という早い時期から学生を受け入れてくださった幼稚園・保育園の皆さま、通年というスタイルの実習にご理解とご協力をいただいている幼稚園の皆さまに感謝いたします。

さて、通年で、子どもたちと関わっていけるのは明德の特色の一つです。短期の集中した実習と違い、子どもたちの成長がよく見えてきます。4月にはこんなこともできなかったのに、いまでは、こんなこともできる。遊び方、トラブル場面の解決の仕方、友だちとの関わり方、生活習慣の自立の様子等さまざまな場面での成長が記録の中に現れてきます。また、現場でみた子どもの姿や保育者の関わりを、学校の授業と結びつけて考えやすい仕組みでもあります。さらに1年次の段階で、簡単な「部分実習」を経験するのも特色です。2年次になるとひとりひとりが保育者に代わって様々な実践を行います。1年次では、複数のメンバーで子どもたちの実態から考えて計画を立て、「指導案」という形に整理して、実践を行います。どのように保育を進めていくか、どのような教材を用意するか、アイデアを出し合い、時間をかけて検討していきます。2年次の前段階として、共に考えて学ぶことができる通年実習ならではの仕組みになっています。

実習を終えての学生たちの感想からいくつかあげたいと思います。

- ・実習では初めのうちは少人数としか関われませんでした。次第にいろいろな子と関わることができるようになりました。よく関わっていた女の子は遊ぶとき、いつも私にべったりでしたが、秋を過ぎた頃から年下の子も交えて遊ぶことを好むようになりました。年上のお姉さんという意識が生まれたように見え、成長を感じてうれしかったです。先生からは子どもが自分で考えて行動できるように関わっているという話を聞きました。できないことをやってあげるのではなく、できるようになるために寄り添って考えることが大事だということ学びました。(高橋栞さん)
- ・1年間でたくさんことを学びました。幼稚園の先生がこんなにも子どものことを考えて子どもに接しているのを知って、先生の凄さを改めて感じました。子どものいない時間に、掃除をしたり、遊具などの環境の点検をすることも大事な仕事で、遊具も子どもが興味を持ったり自分で遊んでみたいと思えるような工夫がされていました。環境の中に細やかな配慮があって、保育者は子どもの行動を予測する力が重要なのだと思いました。(林智美さん)
- ・部分実習を経験して、担任の先生の姿には今の自分の姿がほど遠いことが改めてわかりました。子ども達をうまくまとめる難しさや、やりたくないと言っている子にどのように声をかけるかなどたくさんの課題が見つかりました。難しかったし、緊張しましたが、とてもいい経験になったと思います。(伊藤悠さん)

通年での現場経験とそこでの学びが1月末から3月初めにかけて行われる保育所・施設での実習へと繋がっていくことを期待します。





## 保育実習に向けて...学生へのメッセージ

きむよんじゅ  
金 瑛珠

1年生の皆さんは、4月・5月は保育体験として、そして、7月以降は教育実習（幼稚園）として、月に一度のペースで子どもとかかわり、実習を行なってきました。そして、今現在、初めて、連続した期間の実習に行き、現場で様々なことを学んでいます。

実習が始まる前、「毎日、頑張れるかな...」「毎日、記録書けるかな...」と不安そうな姿がありましたが、「絶対、大丈夫！頑張っておいで！」と送り出しました。そこには、きちんと根拠があります。皆さんの一年間を見てきたつもりの私は、皆さんが一年間、着実に力をつけてきた姿も見てきたからです。しかし、みなさんが自分で実感を持っていないと意味がありません。そこで、【保育内容演習】の最後から2番目の授業の時に、各自に、自分自身の実習記録をすべて読み返してもらい、①読み返してみたの感想を書く、②自分の頑張ったところを挙げてみる、③もっと頑張らねば、と感じたところを挙げてみる、という時間を設けました。①②の一部をご紹介します。

- ① 初めの頃は、保育者のかかわりの欄がたくさん書かれていたけれど、途中から、最初ほどではなくなっていた。最初は保育者の動きを見て自分も行動していたけど、途中からは自分で考えて行動するようになっていたのだと思う。
- ① 回を重ねていくにつれて、エピソードの内容が濃くなっていくのに気づきました。エピソードに関しては、子どもたちとの接し方や見方が少しずつ変わっているのかなと思いました。
- ① 最初の実習録は、子どもの姿、保育者のかかわり、実習生の感想などがほとんど動きだけで、意図などは少なく、日記のようになってしまっていました。先生からの添削で少しずつ保育者のかかわりへの考えや自分の気づき、考えを書くようになったと思います。
- ② 添削されたことを見直し、しっかりと書き加えるようにした。
- ② 一度書き方を注意されたことはなるべく次の実習録に記入するとき気を付けるようにした。

読み返し、整理してみたことで、あまり意識していなかった自分の変化、自分が頑張ってきたことに気づき、少し前向きになれたようでした。また、中には、きちんとやってこなかったことに気付かされ、これから頑張ることを誓った学生もいました。

この翌週、いよいよ実習初日が3日後に迫った最後の【保育内容演習】の授業の時、私は学生たちから寄せ書きと花束を頂きました。わたくしごとですが、今年度で明德を退職することを学生が知った直後だったため、学生たちから心のこもった言葉をプレゼントしていただきました。その中には、「絶対、素敵な保育者になります」「素敵な保育者になれるように、まずは、実習を頑張ります」「保育内容で学んだ、実習録での大切な事を、また、振り返りの大切さを意識してこれからも頑張ります」など、心強い宣言が多く、キムグループの学生の前向きな言葉に、とても嬉しくなりました。

今、精いっぱい頑張っている皆さん！

実習は始まったばかりです。大変なこともたくさんあると思いますが、皆さんが、実習を通して、たくさんのことを考え、学び、そして、課題をきちんと持ち帰ってくると信じています。頑張れ！



2年生!

# 保育教職実践演習



## ▲ 授業の目的および形態

保育教職実践演習は、これまでの2年間を振り返り、整理し、就労に向けて必要な知識、技能、学びのまとめ・体験・その他について、学生一人ひとりの“良さ”や“課題”に応じて実践し、深め、まとめていくことを目的としています。授業の方法として、実習を出発点として、受講生全員がこれまでの実習をレポートにまとめ、それを基に、就業に際して必要となる技能や知識、実践を積む。その際、それぞれの良さと課題を自覚し、良さを伸ばし、課題をどうカバーするかを考え、4つのコース（振り返り、福祉、技能、実践）より自己選択し、取り組みを行いました。

## ▲ 4つのコース

### 振り返りコース（担当：石井 章仁）

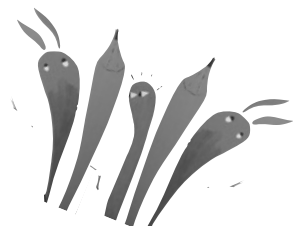
これまでの実習をまとめ、それについての考察をまとめた。そのなかで自身の良さや課題に気づき、それについてどう取り組むかを個人やグループで確認した。成果は、実習のまとめのレポートの作成およびポスターで発表した。

### 福祉コース（担当：加藤 次郎）

社会福祉の現場に就職を希望し、そのために必要なスキル等を獲得することを目的としたコース。福祉現場で働く卒業生や施設長等を招き、講座を行った。

### 実践・事例コース（担当：片川 智子）

担当と課題を確認し、目標を定めた後、実践を行う現場（保育とは限らない）におおむね3回出てレポートを作成する。学内での振り返りを挟みながら現場で学び、成果を口頭で発表した。



### 技能修得・実践コース（担当：伊藤 恵里子）

最低限の現場で使える基礎技能をマスターするとともに、人と協同「Plan-Do-Check-Action (PDCA)」の過程を学んだ。模擬実習（部分実習）では、グループで1つの活動を創る経験をし、事前のロールプレイおよび事後のビデオでの振り返りを行い、映像を使って発表資料を作成した。また、現場で役立つ・実践に役立つためのノートの作成もあわせて行った。



## 技

技能コースでは、保育者として働く際に必要となる技能（保育表現技術）を高めることを目的に、4グループ（1グループ3～4名）が附属幼稚園の預かり保育「ケロちゃんルーム」、2グループが学内の育ちあいのひろば「たいむ」にて実践を行いました。実践を行う前には現場で観察実習をさせていただき、そこにいる子どもたちが楽しめるような活動を考え、指導計画を作成し、学生間で模擬実習を行いました。本番の実践がすべて納得のいくものになったグループは一つもなかったかもしれません。学生それぞれに良かった点、反省してこれからは生かしていく点があったことと思います。完璧な人間などいませんし、失敗はつきものです。しかし、一つの活動を行うためには、細かな部分までの配慮や準備、練習が必要だということは実感したと思います。このコースの目的は冒頭に記した通りですが、結果的には事前準備（環境構成を含む）の重要性を特に学んだのではないのでしょうか。なかには準備を怠ってしまったグループもありましたので、就職先では今回の反省を生かしてがんばってほしいと願っています。最後に、ケロちゃんルームとたいむのスタッフの皆様、ご協力いただきありがとうございました。（伊藤 恵里子）

## 実

実践コースは、33名が参加し、保育参加→記録→メンバーとの実践検討を2～3回繰り返しながら学んできました。特に、保育参加させていただく保育現場を決定する際、どんな課題をもって臨むのかの確認に時間を掛けました。保育者となる上で、自分に必要なことを明確にして、それに対して実践を基にした具体的な学びとなればと考えたからです。「保育者の意図と援助を見る」「子どもの遊びをじっくりと見る」「記録の書き方を見直す」などの課題が挙がりました。また、課題がもてずにいることを自覚した上で視点を設定した人もいました。

最後の発表に向けて、8名程のグループに分かれ、自分たちのまとめレポートを読み合い、共通テーマを見出し、発表時に提示することにしました。ここでは、「見守るためには子どもの遊びが充実できる必要があるのでは」、「遊びが継続するためには環境構成が大事なのは」等の意見が具体的な実践事例と共に出され、お互いの考察が深まる様子が見られました。

良い面ばかりをご紹介してしまいましたが、もうちょっと...ということも多く、担当としての反省もあります。けれど、各々が自分で保育現場に保育参加を依頼し課題を伝え、自分なりに考えたこと（難しさも含め）を言葉に出来たことは、成果だったと考えています。（片川 智子）

## ▲ 考察・次年度に向けて

福祉コースを新たに設定したため、満足度や意欲が向上したようです。実施期間が短く、学生によっては深められなかったりするケースもあり、今後の改善が必要です。

本教科目が、これまでの実習を基盤にしながら全2年間の学びをまとめるために、コースを設定し、より少人数で授業を行うことや「体験からの学び」を重視し、学び合える方法をとっていく方向性については、細部については検討が必要であるが、おおむね担当する教員も参加する学生も異論はないように思われます。

今後、さらに、学生が目標や方法を十分に認識するとともに、一人ひとりが主体的に課題に挑戦できるようなアプローチが必要であり、より一人ひとりに応じた内容の精査および更なる工夫が必要であると考えられます。（石井 章仁）





# 教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

第5回目は、片川先生から皆さんへのおすすめです。

## PROFILE



### 教員名

かたかわ ともこ  
片川 智子

### 担当科目

発達心理学、こども臨床学、保育教職実践演習、保育内容演習、保育方法演習他

### メッセージ

西原理恵子さんの「はれた日は学校をやすんで」（双葉文庫）という本をご存知ですか？ 学校はなぜ行かなければいけないのか、子どもの頃から疑問でした。今でも、こんないい天気の日、皆さんに一齐に授業を受けさせていいのかなとふと思います。環境を用意する側の大人として、疑問を持ち続けたいと思っています。これからの皆さんも考えてみてください。でも、授業は休まないでくださいね！

## 「ひとまねこざる」「おさるのジョージ」

原作：M. & H.A.レイ

私のおすすめ！は、「ひとまねこざる」「おさるのジョージ」のシリーズです。大人気の絵本で、アニメにもなっていますので、知っている人も多いかもしれません。けれど、あえてここでおすすめさせていただきます。

おさるのジョージは、しりたがりやです。あんまり知りたがると面倒なことになるぞと大人に言われても、「なんだろう」「どうなってるんだろう」「すごい！」と、触ったりやってみたりします。

ちょっと試してみたら、マズイことになってしまった！元に戻さなくちゃ、そうだ！前に似たようなことを見たことがある、こうしてみよう...やってみたらもっと大変なことになっちゃった！...あれこれ試してみたら偶然丸く収まったり、収まらなかったりします。

私の子どもたちも、「あ！こうしたらいんじゃない！？」と言って、突拍子もないことをし始めたりして、大人を慌てさせることがよくあります。でも、本人はいたって真剣。そして、ちゃんと理由があります。

この絵本を読むと、子どもはこんなにわくわくして、真剣に考えて、やってるんだろうなと思えてきます。そして、私たちの身の周りにはこんなにもたくさんの「知りたい！」ことがあふれているのだなとも思います。きっと、子どもにとっても大人にとってもです。これが、このシリーズをおすすめに選んだ理由です。もう一つ、この絵本に出てくる大人は、ちょっとおっちょこちょいだったり、色々な人がいるということもおすすめポイントです。

実は、「教員からおすすめ」コーナーを書くことになったらどうしよう...と戸惑っていました。「誰に、どんな時に、何をおすすめしたらいいだろう」と迷っていたからです。そこで、今回は、これから実習、就職も含め他にも様々な形で子どもと関わっていく学生の皆さんに、子どもを思い浮かべて、時にわくわくした気持ちになってもらえたらと考え、ご紹介しました。





## ! hot news !

new movements of this month in meitoku  
! 今月の明德速報 !

### 大人のためのクリスマス



12月24日(木)、育ちあいのひろば たいむにて、スタッフが企画したクリスマス会を行いました。22日(火)には、石井ゼミの学生たちが「親子で楽しめるクリスマス会」を企画したので、今回のコンセプトは「大人のためのクリスマス」。普段はなかなか一息つくことが難しいお母さん方に、私たちスタッフからのささやかなプレゼントをと考え、この企画に至りました。当日は《Barたいむ》に名前を変え、廊下をキャンドルなどで装飾し、大人の雰囲気を作りました。

このイベントのメインである明石先生のギターコンサートでは、クラシックの曲だけではなく、「青春の耀き(カーペンターズ)」「星に願いを」といったポピュラーな曲も演奏していただきました。また、初の試みとして、スタッフが大人向けのクリスマス絵本を2冊読み語りしましたが、どちらもゆったりと鑑賞していただけたようです。思いのほか子どもたちも楽しんでいました。そして、お母さん方からは、「ギターの演奏が素敵だった」「機会があれば、ぜひまた聴きたいな」など、たくさんの嬉しいお言葉をいただきました。

「ギターの演奏で泣きそうになった」と話していた方がいらっしゃり、その一言から、お母さん方は普段の生活の中で家事や育児などに追われ、自分の時間を作ったり、休息の時間を設けたりするのは、なかなか難しいことなのだなと改めて感じました。スタッフ自身そういうことは解っているのですが、普段はついお母さんの思いに寄り添うというよりも、子どもの方に目が向きがちになってしまっているのではと振り返りました。今後の保護者、特にお母さん方とのかかわりについても、スタッフはどう在るべきかと考える良い機会となりました。(たいむスタッフ: 本田 美乃)



## 第56回 スタバお話ライブ



「親子のために、絵本の読み聞かせライブをしてくれませんか」というスターバックスコーヒー千葉おゆみ野店からの依頼で始まった「お話ライブ」も、早いもので5年が経ちました。当初は有志によるサークル活動として行われていましたが、平成25年度からは1年生の授業「児童文化」の一環となり、さらに今年度からは、前期は2年生の授業「あそび技能演習」「フィールドワーク」、後期は有志の参加者によって続けられています。けれども、「集まった親子の皆さんに、楽しい時間を過ごしていただきたい」という気持ちは変わっていません。

第56回のライブが行われたのは、12月24日。この日はクリスマスイブ、そして年末年始ということで、プログラムにもそれにちなんだお話や手遊びが並びました。その他にも、「この場を借りてぜひやってみたい！」と学生自ら希望したのは、授業で覚えたという手袋人形や紙芝居。楽しい行事のお話や、かわいらしい人形を使ったやり取りは、小さなお客様にも楽しんでいただけたようでした。

自分が身につけた技能を、実習先以外で披露できることはなかなかありません。その意味では、このお話ライブは、数少ない実践の機会でもあります。けれどもそれ以上に、お客様も出演者自身も、共にお話の世界を楽しむ場であってほしい。担当者としては、そう願っています。（高森 智子）

## 保育者1年目の卒業生が臨時講師に♪

1月18日、「保育者論」「こども臨床学」の合同授業の様子を覗いてみました。というのも、この日、昨年3月に卒業した保育者4人が臨時講師として学校に帰ってきていたからです。4人が保育者として働き始めて1年目の今、どのようなことに楽しさや大変さを感じているか、卒業までに何をしておくといいか、どのように就職活動を行なったかなどを、丁寧に伝えようとする姿が印象的でした。授業担当者によると、学生の感想には「今やらないといけないことが具体的に分かり、4人の話を聞いて良かった」「どのくらい忙しいかなど、1年目の様子が聞いて良かった」などがあったようです。もうすぐ卒業する2年生の皆さんは今、どのような保育者像を描いていますか？卒業生を自分のキャリアプランにも是非、つなげて欲しいですね♪



卒業生の皆さん、ありがとうございました！お仕事頑張ってください！



齋藤 真菜さん  
富貴島幼稚園



鈴木 伶奈さん  
風の谷保育園



塚原 柚子さん  
明德土気保育園



松本 遥さん  
明德本八幡駅保育園

## 夜間中学校の作品展

先日、東京都墨田区のすみだ生涯学習センターで開催された「夜間中学校作品展」に行ってきました。各学校の取組を紹介した模造紙の他、絵画、縫い物、木工、自分の過去・現在・未来について書いたもの、漢字を絵で表現したもの、カルタなど、様々な作品が展示されていました。どれも作者の作品に対する気持ちが溢れたものばかり。中には学校に通い学ぶことの喜びがひしひしと伝わってくる作品も。

夜間中学校は、様々な事情で義務教育を受けることができなかった人が通う中学校で、生徒の数は学校によってまちまちのようですが、近年は、外国にルーツを持つ人たちが増えているようです。中学校卒業の資格が得られる公立夜間中学校と、得られない自主夜間中学校があります。今回の作品展は、東京都の公立夜間中学校と千葉県の自主夜間中学校に通う人たちが多くの作品を出展していました。年齢・国籍に関係なく、誰にとっても教育の機会は生きていくうえで本当に大切なものだと感じられる作品展でした。(鶴田 真二)

ありがとう！ さようなら！ 非常勤の先生方！

このたび、7名の非常勤の先生方が、任期満了につき明德をご退職されることになりました。先生方のお名前とご担当された授業は以下の通りです。

- 副島 民恵 先生・・・「乳児保育」
- 重田 清江 先生・・・「乳児保育」
- 田中 純子 先生・・・「音楽表現とピアノⅠ」
- 大竹 麗子 先生・・・「あそび実践演習Ⅱ（図画工作）」
- 石井 友光 先生・・・「あそび実践演習Ⅲ（体育）」
- 盛 思超 先生・・・「オーラル・コミュニケーションⅠ（中国語）」
- 荒松 礼乃 先生・・・「あそび技能演習」

田中純子先生は、30年以上にわたり授業「音楽表現とピアノⅠ」で学生を指導してくださいました。最後の授業で感謝の意を伝える会で古山先生もおっしゃっていましたが、先生方に教えていただいたことを胸に刻んで保育者になることが、先生方に対する何よりも恩返しだと思います。



先生方、今まで大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

## ♪ 深谷ベルタ先生のインタビュー記事、雑誌に掲載 ♪

「保育者と親のための学び&交流会『エデューカーレ』2016年1月号」に、今回特集した「あそぼうカー」プロジェクトを立ち上げた教員 深谷ベルタ先生が載りました！ 同誌編集者 汐見稔幸先生との対談です。図書館にもありますから、ぜひご一読を！







### 「実習への意気込み」

私の実習に対しての不安は、朝起きられるか、実習録を毎日きっちり出せるか等ありますが、とても楽しみなので頑張れそうです。保育所実習では、アルバイトで保育園に行っているのので、今までのこどもたちとの関わりを生かして、しっかりと学んでこようと思います。施設実習では、事前の課題が出されているので、着々と進めて行ってすっきりとした気分で臨みたいと思います。

鍛田春華



保育所 → 児童養護施設

岩井凜

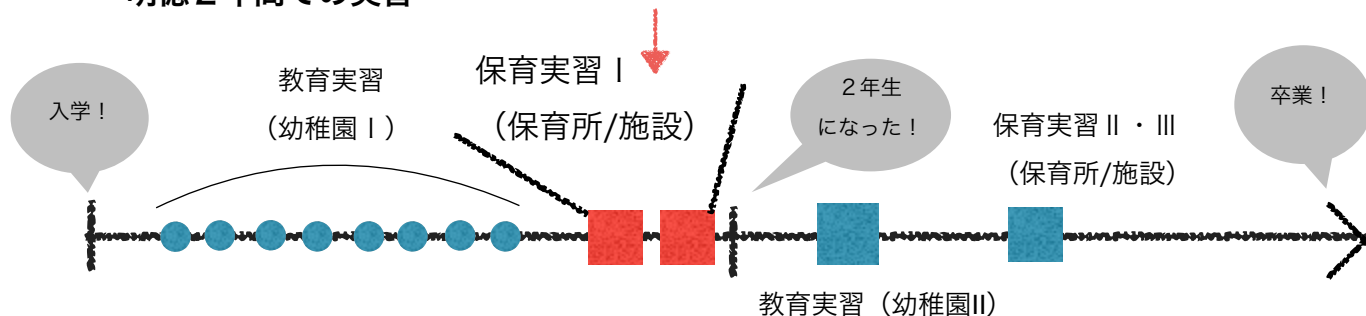


### 「前向きに実習へ」

私は、テキストを読んで知識を増やすのも好きですが、実際に体験して知識を深めるのも大好きです。今回の実習は、初めて1人で向かうためか、少し緊張感はありますが、自分への不安はありません。自分のことを最優先にしたいところですが、友人への不安の方が大きいです。友人の多くは、レポートに集中しすぎて食欲が減るかもしれないと、実習が始まる前から気にしています。食事と睡眠だけはしっかり摂って、元気で実習に行っていきたいと心配になります。私も、体調管理に気をつけて、体験できることを楽しもうと思います。

障害者支援施設 → 保育所

## 明德2年間での実習



### 「経験しに行く！」

私は、前半に保育実習を、後半に施設実習を2週間ずつ行います。保育所には昨年の夏にボランティアで訪問し、2日間だけでしたが、初めて3歳以下のこどもと1日を共に過ごし、保育をしました。あれから半年が経ち、こども達が成長している姿を見に行くことがとても楽しみです。施設実習は、静岡県での泊まり込みの実習となります。障害をもつ方と1日を過ごすのは、これで2回目の体験になります。今回は泊まりということで朝から夜まで共に過ごします。2週間やっていけるか不安ですが、利用者さんの助けになったり、言葉が通じなくても共有し合えることを楽しみにしています。

### 安部あすか



保育所 → 障害者支援施設

### 栗山恵里奈



保育所 → 障害者支援施設

### 「唯一不安なこと」

私は、前半に保育園に行きます。その中で私は1つだけどうしても不安なことがあります。それはレポートです。私はレポートを書くのがとても遅いです。教育実習（幼稚園Ⅰ）では、実習後に書き始めても、提出日の朝、電車の中でやっと書き終わることもあります。なので、レポートが遅れないか、寝不足になってそのままリタイアしないか恐いです。でも、保育園はこども達とたくさん関わることができるし、実習先の先生からも私の不足部分を指摘して頂けるので、正直とても楽しみです。レポートをなんとか頑張ってお実習を楽しみたいです。

# MEITOKU SNAP



1月14日(木)、授業「あそび基礎演習」は今年度最後の合同ワークショップで、ゴミ袋と竹ひごで凧を作って遊びました。表紙の写真は、その凧を実際にあげているところ。夕日に舞う凧がとても綺麗です。このように身近なもので作り遊べる内容をたくさん覚えて、ぜひ保育現場でいかしてくださいね！

## 明德の2月

1日(月)+24日(水)

▶ 入試面談

2日(火)+15日(月)

▶ 一般入試・社会人特別入試

4日(木)

▶ 保育実践研修会

6日(土)

▶ 公開授業

7日(日)+14日(日)+21日(日)

▶ 千葉市子育て支援員研修

9日(火)

▶ 保育実習Ⅰ事後指導(1年)

12日(金)

▶ 学びの成果発表会

15日(月)~27日(土)

▶ 保育実習Ⅰ(1年)

19日(金)

▶ 研修生スクーリング

20日(土)

▶ スタートアップ・カレッジ

▶ 公開授業

▶ ホームカミングデー(44回生)



## 編集後記

2016年も幕を明け、1ヶ月。明德では、1年生は初めて保育実習Ⅰへ踏み出す準備を、2年生はもうじき社会に足を踏み入れる前段階として2年間の学びのまとめを、とそれぞれ新たな道へ踏み出す準備を重ねた1ヶ月でした。楽しみや期待、希望を持って一步踏み出す人もいれば、戸惑いや迷い、不安を乗り越え(あるいは抱えるという覚悟を持って)、その一步にたどりついた人もいるでしょう。どのような気持ちを抱えていたとしても、その一步を踏み出すためには、しっかり踏みしめることができる地盤が必要です。これまでの明德での日々が、踏み出すだけの地盤になっていますように。だけど、踏み出してみて、違っていると思ったら、立ち止まっても、引き返してもいいんです。そうしたら明德が、また次の新たな一步を踏み出せる地でありますように。そんな思いを込めてお届けします。(田中)

## ★INFORMATION★

明德HPの「めいたんブログ」でも、明德の「今」を日々発信しています。ぜひご覧ください。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

発行：千葉明德短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

鶴田 真二



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せください。